

令和7年度 射水市障がい者地域活動支援センター実績報告

委託先	あいネットいみず	類型	基礎的事業
標準利用人員	10人／日	委託金額	6,000 千円

1 事業総括

令和7年度 目標		
・利用者ニーズに即した創作的活動、生産活動と地域支援プログラムメニューの工夫・充実を図る。 ・ボランティア団体の活用の工夫と市民に対するボランティア参加の呼びかけの強化を図る。		
事業内容	成果	
基礎的事業 (1)創作的活動及び生産活動の機会の提供	①創作的活動の提供 ・料理教室 ・お菓子作り ・創作活動 ②生産活動の提供 ・軽作業 ③余暇支援 ・軽運動(スポーツレクリエーション) ④憩いの場の提供 ・障がい者同士が気軽に来所し、話し合う場(憩いの場)の提供	
(2)社会との交流促進	・ボランティアを講師に招いたり、ボランティア団体や地域ボランティアに働きかけたりして、社会との交流促進を図る。 ・地域での行事や活動等に積極的に参加し、地域住民との交流を図るとともに、障がい者への理解を深める。	
職員配置について		
区 分	氏 名	資 格
管理者	稲垣 宏	
相談支援員	原田 早季	社会福祉士
支援員	市井 沙和	社会福祉士

3 創作的活動及び生産活動、社会との交流促進の参加実績(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
創作的活動	0	37	19	22	18	16	26	18	20	14	14	14	218
生産活動	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	2	7	15
社会との交流促進	0	37	28	31	27	27	32	28	25	22	24	32	313
合計	0	74	47	53	45	43	58	46	51	36	40	53	546

4 今年度の地域活動支援センターの運営等について(目標の達成状況、課題などを自由記述)

- ・新たに「スポーツレクリエーション」を毎月企画し10名以上の参加があり好評であった。
- ・「押し絵」ではボランティアを講師として招き、社会との交流を図る事が出来た。

5 自由記載欄

令和7年度 射水市相談支援事業実績報告書

委託先	あいネットいみず	委託金額	2, 200千円
-----	----------	------	----------

1 事業総括

事業内容	実績
(1) 福祉サービスの利用援助に関すること	・福祉サービスの利用がない、引きこもり、孤立、貧困、8050家庭等の支援が必要な家庭の訪問や通院同行等を行った。 ・障害者手帳取得や障害年金、成年後見制度の利用が必要な家庭には支援を行いながら、本人のニーズを確認し、様々な支援機関に繋いだ。
(2) 社会資源を活用するための支援に関すること	・学校、病院、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などと連携し、利用者、保護者、事業所と相談支援専門員により、障がいの理解、利用者の就業面や生活面での課題解決に向けた面接や会議等を9名に対して11回実施した。
(3) 社会生活力を高めるための支援に関すること	
(4) ピアカウンセリングに関すること	・地域活動支援センターにおける活動後に障がい者同士が職場や生活のことについて気軽に話し合う機会を確保した。
(5) 権利擁護のために必要な援助に関すること	・成年後見に関して、法務事務所などに連絡をとりながら話し合いをスムーズに進めた。今年度は、2件の支援(1件につき1回～3回の支援)を行った。成年後見申し立ての流れの説明から情報の提供や確認、助言を行いながら、司法書士を通して成年後見の申し立てを行った。また、障害基礎年金の申請手続きの支援、療育手帳の申請の支援も行った。
(6) 専門機関の紹介に関すること	・相談内容に応じて、病院、就業・生活支援センター、後見センター、法律事務所、すてっぷ、障害者職業センター等を紹介し、連絡調整を行い対応した。

2 相談支援事業の実績

(1) 運営体制について

相談窓口

窓 口	場 所
あいネットいみず	射水市小島703
受付窓口 8:30～17:15電 話 24時間(17:15～翌8:30は留守番電話対応) ファックス 24時間 メール 24時間	

(2) 相談件数について(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

① 相談方法別件数(延べ件数)

訪問	来所	同行	電話
61	47	31	169

電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
15	1	0	2	326

② 相談受付件数(延べ人数)

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳
5	0	199	90	24	0

その他(重複無)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	その他(重複あり)	合計
4	0	1	3	0	0	326

③ 相談内容別件数(延べ件数)(相談内容を重複計上)

福祉サービス	障害理解	医療機関同行	服薬・健康管理	不安解消	幼稚・保育園紹介
115	6	2	1	64	0

教育・進路	家族・人間関係	年金・生活保護	金銭管理	家事	育児
3	6	11	25	0	0

就労	サークル活動	外出・移動	虐待	成年後見	その他	合計
37	0	0	2	2	88	362

3 相談支援から見た地域の課題

- ・就学後の継続的な支援。教育と福祉の連携。
- ・境界知能への理解とその支援。
- ・障害者の高齢化に伴う介護保険サービスへの移行。
- ・家族の高齢化。親亡き後への備えに対する支援。
- ・保証人の確保。
- ・短期入所の不足。
- ・障害者のネットでの金銭トラブルへの対応。

令和7年度 射水市障がい者地域活動支援センター実績報告

委託先	特定非営利活動法人ふらっと	類型	基礎的事業
標準利用人員	10人／日	委託金額	6,000千円

1 事業総括

令和7年度 目標	
・地域生活支援拠点事業の整備の推進に協力し、地域社会資源の一つとして、障がいのある方や家族、一般市民が安心して利用・交流ができるセンターを目指す。 ・一般の情報サイト運営会社やアーティストと協力し、ZOOM等も活用しながらハイブリッドで楽しみ、生活意欲が高まる余暇支援を行う。 ・テレワークや働き方改革、離職等によって起こりうる、DVや虐待、プライバシーの侵害、コロナうつ、コロナ離婚など、家族の状態を把握する。母親の孤立感や障がいのある子の子育て、介護に加えて兄弟、夫などの世話が増えることによる精神的負担感を開放できるよう支援する。 ・兄弟の精神疾患や不登校、引きこもり等、ヤングケアラーに関する取り組み。 ・本人及び家族が「働く」ことについての啓発と支援。 ・障がい乳幼児の子育て支援や関り、専門性が必要な強度行動障害、医ケア、引きこもり、発達障がいの方の自立支援について理解を深める研修等を行い、直接援助技術の向上に努める。 ・障がいのある方の在宅生活の継続のためには、幼少期からの父親の関わりも大切。パパ支援のサークルを支援していく。 ・一般市民と共に学ぶ取り組みの実施。虐待防止を中心とした地域生活を推進するチームづくりを目指す。	
事業内容	成果
基礎的事業	
(1)創作的活動及び生産活動の機会の提供	・創作活動は乳幼児達と一緒に、子育て支援中の母親、父親、時には祖父母も加わり、手形や足形でバレンタインやクリスマスなど、季節に合った作品を創り上げた。作品にしたり、アーティストと一緒にモールフラワー、ペーパークラフトのかご作り、天然芝の人形作りなど、体験の機会を提供した。。 ・射水市まちづくり協議会と共催して、令和3年から開催している「ふらっと作品展」を令和7年度も4月に小杉展示館にて開催した。落書きや身近な材料によってできあがる造形作品などの展示の他、日々の活動の中で取り組んでいる手芸作品や、利用者が描いたイラストをプリントしたバッグやTシャツの販売も行った。 ・地域の高齢ボランティアの方と一緒に、夏野菜やサツマイモの植え付けから収穫までの作業を行なって、ふらっと収穫祭を行なっている。また、畑で収穫したラベンダーやミントなどのハーブを地域の方に配布したり、障がい者施設で生産した花苗を購入しプランターで育てている。

(2)社会との交流促進	・今年度も積極的にボランティア、県内外からの見学者の受け入れを実施した。また、看護学生や福祉系の学生や高校生との交流を大切にしている。 ・毎月嘱託医から障がい当事者が直接お話を聴く「健康講座」を開催している。令和7年度は、地域住民の方々も一緒に参加された。 ・障がいのある方の虐待防止や、権利擁護・意思決定支援を推進するために、「チームカラフルs」を結成し、定期的に地域住民や外部委員との話し合いの場を継続している。 ・海王丸パークで開催された「ワンフェス」(ライブイベント)に、地域生活支援事業の障害者(児)移動支援事業を活用してグループで出かけ盛り上がった。学生ボランティアとも交流した。 ・救急薬品プラザ広場で行なわれた「下条川みこし祭り」には「ジェネレーションミックス」をテーマとして高校生が考案したダンスを披露した。赤ちゃんから高齢者まで、障がいのある人もない人も、ふらっとちゃんTシャツを身にまとい参加した。夜にはふらっとでのビアガーデンを開催し、飲食やパフォーマーによるファイヤーショー、地域の獅子舞を楽しんだ。大勢の地域の方々が来場され、世代を超えて交流した。 ・9月は富山環水公園で行われた小児がんの理解啓発キャンドルイベント「灯り」、10月は歌の森公園で開催された射水市多文化交流イベント「リンクパーク」に射水市制20周年・ふらっと25周年として、映画「インディペンデントリビング」の上映会や、障がい当事者の意見発表、キャンドル点灯のボランティア等を共催団体として実施。障がいのある方も移動支援を活用し参加した。 ・「射水市障がい者理解促進研修・啓発事業」も活用して、地元自治会、地域振興会、民生委員・児童委員、ボランティア協議会、ささえ合い会議や、地域包括支援センター、地元企業や学生ボランティアの多くの方々からの協力で、参加者総数230名の交流事業「クリスマスもちつき大会」を開催することができた。感染防止対策を徹底しながら、杵臼による餅つき、豚汁の提供やバルーン、ジャグリングショー等を実施し、利用者やご家族、ボランティアの皆さんの交流はもとより、一般の方々への障がい者理解の社会啓発とした。 ・近所の教会の皆さんの訪問でXmasソングのプレゼントが届き、一緒に歌ったりプレゼント交換をしたりと交流を深めた。 ・ニューイヤーもちつき会では、パパ・ママサークルの活動の場の提供として、キッズコーナーの運営を依頼し、交流が深まった。
-------------	---

職員配置について		
区 分	氏 名	資 格
管理者・主任相談支援専門員	宮袋 季美	
センター長・主任相談支援専門員	山本 真紀子	社会福祉士・保育士
相談支援専門員	佐藤 格	社会福祉士
相談支援専門員	熊田 由依	介護福祉士・保育士
相談支援専門員	池田 美幸	社会福祉士・保育士
支援員	増川 元英	

3 創作的活動及び生産活動、社会との交流促進の参加実績(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
創作的活動	49	49	31	63	21	50	48	65	51	36	43	47	553
生産活動	34	30	43	32	46	24	47	32	41	29	46	96	500
社会との交流促進	33	106	93	63	165	89	93	112	75	341	66	60	1,296
合計	116	185	167	158	232	163	188	209	167	406	155	203	2,349

4 今年度の地域活動支援センターの運営等について(目標の達成状況、課題などを自由記述)

・令和7年度も地域活動センターが担う「居場所」としての役割を継続した。学校に登校できない日に過ごす児童や、訪問看護師と一緒に過ごされる方、気が向いた時にお茶を飲みに来られる方、日中は引きこもっていても夕方には掃除を自分の役割としておられる方など複数名が居場所として利用されている。

・障がい児者やその家族が参加できるイベントなどを地域の皆さんと協働しながら開催することで、共に楽しみ、知り合える場を創っている。

・射水市社会福祉協議会が実施している「ひきこもり相談会」に相談員を派遣することで、地域活動支援センターを居場所として紹介できる機会が増えた。

・射水市内の障がい児者福祉サービス事業所、社会福祉協議会、学識者等、有志とともに「ベタライ(射水市の障がい福祉を考える会)」での勉強会を継続し、障がい児者やその家族が住みやすい地域づくりを目指しながら組織の枠を超えて連携を深めている。

・能登半島沖地震が契機となり、医療的ケアのある方や重症心身障害児者、強度行動障害の方に対しての緊急時の避難行動について、ご家族とともに考える機会が増えた。避難行動要支援者名簿への登録の推進を行っている。

・令和7年度に予算化された、射水市日常生活用具の給付による在宅医療的ケア児者に対しての非常用電源の整備について、情報提供や手続き支援を行った。

・医療的ケア児者や強度行動障害児者等、緊急時の避難が困難と思われる方に対して、個々の避難行動計画や地域の避難訓練への参加などを進めていく必要性を感じている。災害対策を見据えての外出支援を行うことも、緊急時の避難行動の練習となる。

・外国人ルーツの障害児のサービス利用や、居場所として親子でセンターを利用している方もいるので、相互理解のためにも言語や文化の違いについての相談員のスキルアップの機会の必要性を感じる。

・土、日、祝に利用できる障がい福祉サービスや、居場所、参加できる活動など、ニーズはあるが応えきれていない。

・移動支援や行動援護、同行援護等の外出支援のサービス事業所数が限られていて、新規の利用が難しくなっている。行動援護では、コロナ禍の影響を受けて引きこもっている重度自閉症(強度行動障害)の訪問支援も新たに始まるなど、ニーズは依然高く、需要に対して供給は追いついていない。

5 自由記載欄

・地域生活支援拠点事業の周知不足。ニーズの現況に応じて利用できるよう、内容についての見直し。

※土曜、日曜、祝日等、日中サービス事業所が利用できない時や、宿泊までは必要のない事業所の利用時間外の緊急的な利用に対しても、柔軟に受け入れができる事業所を増やすなどの、体制整備が必要ではないか。

・障がい者や障がい児、その家族が活動したり話し合ったりする場を創り、当事者からの意見を総合支援協議会に届けていく仕組みづくりが必要。総合支援協議会の仕組みの中に当事者部会や権利擁護部会の創設を希望する。

・発達障がい児に関しての早期診断、早期療育により、障がい児の福祉サービス利用が増えている。家族や相談支援専門員が連携して子ども達の発達に伴走するためにも、幼児期から児童期、青年期までのライフステージを見据えて支援する、中核的な児童発達支援センターが必要。

令和7年度 射水市相談支援事業実績報告書

委託先	ふらっと	委託金額	2, 200千円
-----	------	------	----------

1 事業総括

事業内容	実績
(1) 福祉サービスの利用援助に関する事	・障がいの種別(知的・発達・精神・身体・難病・医ケア)や年齢(児・者)に関わらず、相談内容に応じて必要な福祉サービスに関しての情報提供や利用調整を行った。 ・本人・家族の心情に寄り添いながらサービスへ繋ぐことを重視した。
(2) 社会資源を活用するための支援に関する事	・地域アセスメントを意識して、障がい福祉サービスだけではなく身近な社会資源も含めて活用するように努めた。 ・保健・医療・教育・福祉・労働・消防・警察等の公的機関や障害福祉事業所のみならず、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、社会福祉協議会、企業、当事者会、民生委員・児童委員、地域振興会、ささえあい会議等の幅広い人と繋がりを継続している。 ・医ケア児等(重症心身障害児者含む)の受け入れ先の拡充に努めた。
(3) 社会生活力を高めるための支援に関する事	・地域でその人らしく生活するために、子どもの時から障がいがあってもインクルーシブな環境での保育や教育を実現するため、家族への支援と関係機関との協力、連携を推進している。 ・経験や体験の機会を提供するために、地域行事やイベントへの参加や、移動支援、行動援護、同行援護等、必要なサービスに関しての情報提供や利用を推進した。
(4) ピアカウンセリングに関する事	・地域活動支援センターや子育てつどいの広場と協働し、家族同士で気軽に相談や情報交換ができる機会を提供した。 ・ご本人が自分の意見を发表或し、表現をする機会を積極的に創った。(ふらっと25周年記念ステージや医療的ケア児等支援者養成講座へのZOOM出演など) ・新米ママ・パパと先輩ママ・パパが出会える場の創出としてランチ会などを開催した。
(5) 権利擁護のために必要な援助に関する事	・ふらっと展、みこし祭り・ピアガーデン、餅つき会などのイベントや祭りなど、障がい当事者同士が参加できる居場所を創ることで、出会いの場や気軽に話し合える機会を提供した。 ・成年後見事業や日常生活自立支援事業利用に関する情報提供、障害者手帳取得や障害年金(基礎・厚生)申請に関する支援を行ったり、虐待防止に関して相談支援専門員が研修に参加することで相談援助技術の向上を図っている。 ・障がい児者及びその家族が活動したり話し合ったりする場を創り、その中での意見や、日頃の相談から出た意見を、毎月地域活動支援センター会議で伝えている。
(6) 専門機関の紹介に関する事	・障がい当事者やその兄弟姉妹の精神疾患や不登校、引きこもり、ヤングケアラー、触法等、相談内容に応じて、保健、教育、医療、労働機関や発達障害者支援センター、高次脳機能障害支援センター、医療的ケア児支援センター、障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、地域定着支援センター等、その他必要と思われる専門機関や各種団体に関する情報提供や紹介を行った。

2 相談支援事業の実績

(1) 運営体制について

相談窓口

窓 口	場 所
ふらっと	同左
受付窓口 8:30～17:15電 話 24時間(17:15～翌8:30は留守番電話対応) ファックス 24時間 メール 24時間	

(2) 相談件数について(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

① 相談方法別件数(延べ件数)

訪問	来所	同行	電話
156	777	14	1848

電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
187	51	116	352	3,501

② 相談受付件数(延べ人数)

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳
210	343	1,126	118	338	25

その他(重複無)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	その他(重複あり)	合計
296	879	57	0	0	109	3,501

③ 相談内容別件数(延べ件数)(相談内容を重複計上)

福祉サービス	障害理解	医療機関同行	服薬・健康管理	不安解消	幼稚・保育園紹介
1,874	325	66	640	307	0

教育・進路	家族・人間関係	年金・生活保護	金銭管理	家事	育児
68	55	28	67	32	39

就労	サークル活動	外出・移動	虐待	成年後見	その他	合計
64	0	47	44	7	391	4,054

3 相談支援から見た地域の課題

- ・夜間や休日に家族の体調不良や家庭の事情などが発生した場合、障がいのある方に対する緊急時の相談や対応の整備と周知。
- ・不登校、ひきこもり、介護、お金のことなど、多岐にわたる相談が寄せられる。日頃からの関係機関との連携の強化。
- ・身体障がい児者、医療的ケアの日中サービス受け入れ先が市内に少ない。
- ・児童発達支援センターの設置等、障がいのある人が乳幼児から児童、成人へと発達していく過程を繋いでいく体制の整備。
- ・外出を楽しみたいという希望は多いが、移動支援や行動援護のサービス事業所が少ない。

令和7年度 射水市障がい者地域活動支援センター実績報告

委託先	特定非営利活動法人ワークホーム悠々	類型	基礎的事業
標準利用人員	10人／日	委託金額	6,000千円

1 事業総括

令和7年度 目標		
・「いつ来ていつ帰ってもいい」という自宅以外で安心できる環境作り ・主体的に参加できるピア活動の実施、家族への支援・交流の機会の充実 ・関係機関、地域との連携 ・障がいに対する理解を促進するための活動を行う		
事業内容	成果	
基礎的事業 (1)創作的活動及び生産活動の機会の提供	・年度末時点で43名の登録あり。 ・見学は4名、体験利用は1名、新規利用登録者は2名。 ・開所日239日、年間延べ803名の利用あり(前年度598名)。 ・毎月ミーティングを実施し、希望を取り入れながらプログラムに反映した。通院日などを考慮し、できるだけ希望に添えるよう組み込んだ。 ・その日の体調や天気などもあり、利用人数は日によって波がある。 ・プログラムを選んで利用する方がいる一方で、今年は個別対応を希望する方が多く、職員や部屋のやりくりに苦慮した。病状の重い方もおり、他利用者と同一空間にいられないため、1対1での対応が必要な方もいる。 ・日頃、身体を動かす機会が少ないことから身体を動かすプログラム(ストレッチ、テーブル卓球など)が好評だった。天気の良い日には積極的に散歩を促した。 ・外部講師を招いて絵手紙教室やアート教室、自転車の交通ルールを学ぶ出前講座などを行った。 ・火、木曜の午後はワークホーム悠々(就労継続支援B型)へ移動してステップアップを目指す方の作業時間帯と位置付けており、実人数5名、延べ148回の参加があった。体調に波があり、作業を休む場合も多いため、就労系サービスの利用などには結びついていない。 ・家族交流会は2回実施。利用者から家族に対しての日頃の思いをアンケートをとり、家族に伝えた。誰にでも相談できるわけではない、同じ立場で悩みの共有ができた后感想があった。	
(2)社会との交流促進	・定期的に周辺地域の街頭清掃(13回/延べ41名)を実施した。 ・近隣施設の利用を積極的に行ったり、市内の交流施設や商店にも外出レクとして出かけた。 ・ボランティアや地域家族会いみず野会員などに行事案内をし、行事参加を通して交流を図った。町内にも案内は出したが、参加には至らなかった。 ・町内の高齢化が進んでおり、依頼があれば資源の回収に出向いた。また、近隣の除雪作業や除草を行った。	
職員配置について		
区 分	氏 名	資 格
センター長	戸田みどり	相談支援専門員・精神保健福祉士
指導員	中島 智子	相談支援専門員・介護福祉士
指導員	黒田 祐子	

3 創作的活動及び生産活動、社会との交流促進の参加実績(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
創作的活動	40	36	57	64	43	42	44	32	42	46	46	47	539
生産活動	6	13	9	12	8	16	19	17	17	13	11	7	148
社会との交流促進	9	13	9	4	2	13	17	8	13	16	5	7	116
合計	55	62	75	80	53	71	80	57	72	75	62	61	803

4 今年度の地域活動支援センターの運営等について(目標の達成状況、課題などを自由記述)

・精神科病院からの紹介やすてっぷからの紹介で相談や施設利用につながった方が複数名いた。まずは、マンツーマンで時間をかけながら関係性を作って、少しずつ集団の中に入れるようになり、社会復帰や社会とつながる第一歩としての機能は一定数あったと評価する。

・利用者同士で、日常の困りごとや悩みを打ち明けて相談し合う様子もみられた。同じ悩みを共有したり、人との違いを認識する機会となった。

・みんなと一緒にだからできる活動もあり、経験値を増やすことができた。

・自分を表現する力や自分自身を認めて少しでも自信が持てるような関わりや活動をしたい。また、障がい特性や加齢に伴い外出の機会が減っているため、活動も工夫したい。

・家族の息抜き、家族同士の交流・情報交換などの機会の提供を増やしたい。

・独居により社会との交流が少ない方よりどこになっている面もあるため、自分の話を聴いてほしいという思いの強い利用者や、病状的に配慮が必要な利用者も多いため、一对一の支援が必要な場合も多い。職員体制の強化をしたいが、不十分な状況が続いている。

・地域に貢献する活動を継続することで、福祉や障がいへの理解を深めてもらう機会を作っていきたい。

令和7年度 射水市相談支援事業実績報告書

委託先	特定非営利活動法人ワークホーム悠々	委託金額	2, 200千円
-----	-------------------	------	----------

1 事業総括

事業内容	実績
(1) 福祉サービスの利用援助に関すること	・電話や来所、訪問等で福祉サービス利用の開始や利用中の相談に563件対応した。 ・障がい福祉サービスの利用相談や地域活動支援センターの利用、また事業所の見学などの依頼があった。精神科の病院ワーカーからの相談依頼が多かった。 ・関係者と連携をとりながら、必要な情報提供を行い、対象者の特性に合わせた説明を心がけた。
(2) 社会資源を活用するための支援に関すること	・福祉サービス事業所や医療機関、公的機関など、その方にとって必要な情報提供に努めた。 ・新設事業所の把握、見学等を行った。
(3) 社会生活力を高めるための支援に関すること	・必要に応じて、買い物の同行や各種申請・手続き等の同行などを行い、本人の不安の解消に努め、生活の支えとなった。 ・他者とのコミュニケーションの取り方を一緒に考え、実行に移せるよう手伝った。
(4) ピアカウンセリングに関すること	・地域活動支援センターと協働し、家族同士の悩みの共有や情報交換のための交流会を実施したり、レクリエーションへの参加を募った。
(5) 権利擁護のために必要な援助に関すること	・成年後見制度(遺言や死後事務委任)に関する研修会を実施した。
(6) 専門機関の紹介に関すること	・相談内容に応じて、医療機関や訪問看護ステーション、福祉サービス事業所や障害者就業・生活支援センター、すてっぷ、地域包括支援センターなどへの紹介や情報提供、連携を行った。

2 相談支援事業の実績

(1) 運営体制について

相談窓口

窓 口	場 所
地域活動支援センターつどい	同左
受付窓口 9:00～16:00 電 話 24時間(受付時間外は留守番電話対応) ファックス 24時間 メール 24時間	

(2) 相談件数について(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

①相談方法別件数(延べ件数)

訪問	来所	同行	電話
167	168	14	1198

電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
83	43	529	0	2,202

②相談受付件数(延べ人数)

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳
29	0	98	1933	36	0

その他(重複無)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	その他(重複あり)	合計
10	0	48	32	0	16	2,202

③相談内容別件数(延べ件数)(相談内容を重複計上)

福祉サービス	障害理解	医療機関同行	服薬・健康管理	不安解消	幼稚・保育園紹介
563	354	1	42	1074	0

教育・進路	家族・人間関係	年金・生活保護	金銭管理	家事	育児
0	76	17	14	7	8

就労	サークル活動	外出・移動	虐待	成年後見	その他	合計
26	0	0	0	4	16	2,202

3 相談支援から見た地域の課題

・8050問題として障がい当事者と関わることがあった。受け入れがよい場合と、受け入れを拒否する二極化の印象があり、50代以降の障がい福祉サービス利用は受け入れなどに時間を要すること多い。ベースに何らかの障がいなどがあることも多く、早い段階から外部の介入や相談につながっていることが求められる。長期的考えると、保育、教育現場における把握や介入が必要と思われる。

・親の高齢化、当事者自身の加齢、親類や近所との関係の希薄化、精神障がいへの偏見等もあり、関わってくれる身内がおらず、保証人や緊急連絡先がないままの方もいる。成年後見制度や身元保証サービスの利用が必要となる方が今後多くなると予想される。

・障がいのある親やきょうだいの介護をしている方からの相談もあった。慎重に進めながらも、関係者間で連携をとりながら、共倒れにならないようタイミングをはかりながら関わる必要があると認識した。

・移動手段としての「のるーと」が便利なものになった方がいる一方で、定期のコミュニティバスであれば無理なく利用できたがのるーとは使いにくいものになった方も一定数いた。行動の制限、引きこもりの助長につながらないようにしなければならない。

令和7年度 射水市障がい者地域活動支援センター実績報告

委託先	特定非営利活動法人むげん	類型	基礎的事業
標準利用人員	10人／日	委託金額	6,000千円

1 事業総括

令和7年度 目標	
地域活動支援事業として、今年度も利用される方々のニーズに寄り添った活動を展開し、一人一人の強みを活かし、お互いに助け合うことが出来るよう、広い事業所敷地内に花壇や野菜等を四季に応じて植え育て、皆で調理し、食し、花を飾ったサロンの環境を作り、カラオケ等で楽しめる事業を計画し、生産活動や創作活動を通して持てる能力の維持・向上を図りたい。また令和5年度より放課後や長期休暇の子ども達の居場所として2階の部屋を開放し、「とやまっ子さんさん広場」を開設。今年度も地域や学生のボランティアとともに子ども達と交流し、地域全体で子ども達の成長を見守りたい。地域の多くの方にむげんに足を運んでもらい、むげんの利用者との交流の場として「寺子屋講座」「夏祭り」「よい音楽を聴く会」「クリスマス感謝祭」などを実施。また、無農薬による「ハーブの育成」に取り組み、むげん「よってかれま」のサロンへ提供し、顔が見える福祉のあるまちづくりの実現を行っていききたい。	
事業内容	成果
基礎的事業 (1)創作的活動及び生産活動の機会の提供	市や地域で開催されている作品展へ展示する作品の制作に取り組む。今回は重層アートを枯山水に見立てた、自然の石を思い思いに飾っていくミニ枯山水や作業で使用するレースや布の端切れから作成したバラなどSDGSを意識して作成に取り組んだ。 また、ボランティアの方々より多くのタオルをいただき、1枚1枚ミシンで雑巾を作成し、年末年始の大掃除や学期代わりのお子様を持たせる雑巾として販売をおこない、作る楽しみ、自分たちが作ったものを購入いただける楽しみといった意欲につながる活動ができたと思われる。
(2)社会との交流促進	令和7年度は、猛暑・酷暑の観点から毎年夏季に開催していた「夏祭り」の開催を断念した。「夏祭り」の事業に代わるものとして、寺子屋講座を開催し、「地域防災について学ぶ」をテーマに市の出張講座での研修会、そして、有事の際に提供される防災食の炊き出しや試食会など実際に体験して知識を持っていただく貴重な機会になった。近隣自治会からも大人から子供まで70名の方の参加があり、障がいサービス事業所のある地域の防災について学ぶよい機会となった。 また、事業については近隣の自治会長や民生委員とも協議を重ね、「よい音楽を聴く会」、「パークゴルフ大会」、「クリスマス感謝祭」、「ミニスポーツ大会」などといった恒例となっている交流事業を行った。

職員配置について		
区 分	氏 名	資 格
管理者	門田 晋	
センター長・相談支援員	福島 千尋	精神保健福祉士・主任相談支援専門員
相談支援員	門田 晋	精神保健福祉士・主任相談支援専門員
相談支援員	煤溪 光香	介護福祉士・相談支援専門員
相談支援員	門田 悦子	精神保健福祉士
相談支援員	金沢 優子	精神保健福祉士・介護福祉士・社会福祉士

3 創作的活動及び生産活動、社会との交流促進の参加実績(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
創作的活動	28	41	39	26	0	7	53	16	18	19	16	14	277
生産活動	62	56	69	80	63	62	48	41	55	76	44	45	701
社会との交流促進	47	39	48	45	42	74	52	88	127	47	39	68	716
合計	137	136	156	151	105	143	153	145	200	142	99	127	1,694

4 今年度の地域活動支援センターの運営等について(目標の達成状況、課題などを自由記述)

令和7年度の運営については、自然災害等での休館はなく、引き続き、多くの方にご利用いただきました。上記の活動に参加される方のみならず、一般相談や重層的支援体制事業の対象者の相談や対応が例年に比べ多くなっている傾向があげられます。

ご自身や家族の健康不安、更には複雑化している家族関係での課題、貧困やジェンダーといった様々な課題があり、個々に応じた対応や専門知識を活かした支援が求められているように感じています。そのような重要な役割があると当センターでは新しく専門性豊かな職員1名を配置し、顔が見える、支え合いのある街づくりを目指して頑張っていく所存です。

5 自由記載欄

令和7年度 射水市相談支援事業実績報告書

委託先	地域活動支援センターむげん	委託金額	2, 200千円
-----	---------------	------	----------

1 事業総括

事業内容	実績
(1) 福祉サービスの利用援助に関する事 こと	射水市をはじめ、基幹相談支援センター、各福祉サービス事業所と連携し、本人の必要とするサービスへつなげる。また、重層支援体制事業でかかわる複雑な課題を併せ持つ対象者の方へ福祉サービスの導入にむけ共同した。
(2) 社会資源を活用するための支援に関する こと	他の社会資源・事業所と情報交換し必要なサービスや支援をうまく活用できるよう調整を行う。
(3) 社会生活力を高めるための支援に関する こと	地域のイベント(ふたくちマルシェ)への定期参加、近隣の長寿会への支援協力。地域住民として支えあい、豊かな生活を送ることができるよう、寺子屋講座やよい音楽を聴く会などを開催し、障がい支援を軸とした地域支援について活動を展開した。
(4) ピアカウンセリングに関する事 こと	当事者会・家族会の開催にあたっての会場提供を行った。しかし、事業所内でのリーダー育成やピアフレンズの養成に向けて、人選はできたものの具体的な実施までには至らず、次年度の課題として取り組みたい。
(5) 権利擁護のために必要な援助に関する こと	補佐人としての金銭管理のサポートや生活の助言など、本人とサービス事業者と連携して実施。人権擁護や障がい者虐待等の研修について参加し、伝達研修や配信動画を見て自己点検や周知を行った。
(6) 専門機関の紹介に関する事 こと	新しいパンフレットを作成し、より分かりやすく具体的に事業所の紹介を行った。また、市役所や基幹相談支援センターとも連携しより利用者のニーズに沿った専門的な支援を受けることのできるサービスを検討し、生活がより豊かなものになるようつなげていくこととした。

2 相談支援事業の実績

(1)運営体制について

相談窓口

窓 口	場 所
地域活動支援センターむげん	同左
受付窓口 8:30～17:15電 話 24時間(17:15～翌8:30は留守番電話対応) ファックス 24時間 メール 24時間	

(2)相談件数について(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

①相談方法別件数(延べ件数)

訪問	来所	同行	電話
315	382	30	681

電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
27	13	27	3	1,478

②相談受付件数(延べ人数)

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳
35	0	302	797	137	5

その他(重複無)	身体+知的	身体+精神	知的+精神	身体+知的+精神	その他(重複あり)	合計
72	7	67	54	2	0	1,478

③相談内容別件数(延べ件数)(相談内容を重複計上)

福祉サービス	障害理解	医療機関同行	服薬・健康管理	不安解消	幼稚・保育園紹介
824	9	13	858	691	0

教育・進路	家族・人間関係	年金・生活保護	金銭管理	家事	育児
0	428	42	84	45	6

就労	サークル活動	外出・移動	虐待	成年後見	その他	合計
99	2	54	12	11	20	3,198

3 相談支援から見た地域の課題

令和6年度にくらべ、相談件数は300件ほど増加し、それに伴い相談の内容も700件ほど増えている傾向にある。福祉サービスの利用に向けての相談が依然として多いが、当事業所では精神障がい者の方の相談件数が多いため症状悪化時の本人や家族、事業所からの相談や医療機関との調整といった健康面や人間関係での相談が多い。

令和7年度の相談支援から見えてくる課題としては、依然として健康不安のある方の単身生活での支援体制について。身寄りがなく生活スキルが乏しい中で症状悪化となってしまう際に頼れるところがなく、孤独死をされてしまわれた方や、自身のこだわりからエアコンを使わない生活を送っており、ヘルパー支援のない日には担当相談員が自宅へ伺い対応を行うといったサービスの狭間での支援を行わざるを得ないことがあった。

今後、8050問題でより多くの在宅の高齢者と同居していた自立した生活が儘ならない(障害があるのかもしれないと思われる)家族の相談が寄せられると思われる。制度のはざまにおられる方への支援体制についてがあげられる。